

道民過半数の署名をめざし、北海道民の会がスタート！

9月26日の国連軍縮デーに、広範な団体と個人の賛同のもと「ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会」が結成されました(札幌エルプラザ、参加者約70名)。全国で22番目の県組織です。会は道民過半数の「ヒバクシャ国際署名」を集めようと確認しあいました。



会は北海道の各界を代表する12氏が呼びかけました。そのうち被爆者協会の眞田保会長、生協連の麻田信二会長、前札幌市長の上田文雄弁護士を呼びかけ人代表と決め、当日は眞田、麻田氏のほか、高柳薫元道連合会長、高崎暢元原爆症認定北海道訴訟弁護団団長、橋本智子道消費者協会会長(代理)5名の呼びかけ人が出席して進められました。

呼びかけ人代表挨拶の後、北商連長谷聡子さんが「核兵器禁止条約交渉会議・ニューヨーク行動に参加して」と題して特別報告、北明邦雄事務局長の経過報告と提案、続いて新婦人鈴木由妃江事務局長、佐藤礼人北広島原水協理事長がそれぞれの創意に満ちた署名の取り組みを報告、コープさっぽろの佐藤清治組合員活動部部長も来年1月から本格的に取り組むを開始すると決意を述べ、連合の皆川洋仁道民運動局長は様々な取り組みを中央にも提案していきたいと話しました。

総会はアピールを採択、長田秀樹平和運動フォーラム代表のメッセージの紹介の後、嶋田千津子北海道原水協事務局長が閉会の挨拶を述べて終了しました。

その後記者会見を経て、12時から大通り西3丁目で共同の署名行動を行いました。30余名の参加のもと、短時間のうちに169名もの署名が寄せられました。



賛同団体 118 個人 5 2017/09/30 現在(回答到着順、ただし※印は文書未着も参加意志確認済み。個人への賛同呼びかけは10月から始まります。)

<平和・市民団体関係> 41 団体

原爆の火を維持する会 北空知原水協連絡会 滝川原水協 原水爆禁止北見協議会 農民運動北海道連合会 札幌市南区革新懇 一般社団法人北海道被爆者協会 函館民主商工会 旭川市民民主商工会 札幌市被爆者の会 北海道平和運動フォーラム 北海道生活協同組合連合会 生活協同組合コープさっぽろ 釧路民主商工会 北見民主商工会 被爆二世プラ

スの会北海道 一般社団法人北海道消費者協会 原水爆禁止北広島市協議会 原水爆禁止富良野地区実行委員会 平和憲法を守る網走の会 日本民主青年同盟北海道委員会 地域で憲法を語ろう会 全国大学生生活協同組合連合会北海道ブロック (株)北海道建築研究所 原水爆禁止札幌中央区協議会 原水爆禁止室蘭協議会 北海道革新懇 新日本婦人の会北海道本部 札幌中部民主商工会 日本国民救援会北海道本部 原水爆禁止北海道協議会 小樽民主商工会 札幌東部民主商工会 北海道商工団体連合会 北海道平和委員会 非核の政府を求める北海道の会 空知民主商工会 北海道合同法律事務所

※札幌西民主商工会 札幌北部民主商工会 稚内民主商工会

＜医療・福祉関係＞ 10 団体

さっぽろ高齢者福祉生活協同組合 全日本年金者組合北海道本部 (株)あゆみ厚済 障害者の生活と権利を守る北海道連絡協議会 北海道勤労者住宅生活協同組合 あいの里助産院 あさひかわ福祉生活協同組合 年金者組合札幌中央支部 北海道民医連 あさひかわ福祉生活協同組合

＜労働組合関係＞ 5 団体

全日本建設交運一般労働組合北海道本部 北海道労働組合総連合 日本労働組合総連合会北海道連合会 札幌地域労組 北海道高教組札幌支部

＜文化・芸術・宗教関係＞ 4 団体

北海道宗教者平和協議会 天北書籍センター きたそら書房 北海道合唱団

＜九条の会関係＞ 58 団体

十勝・帯広「九条の会」連絡会 戦争をしないための選択・9条を考える道南の会 苫小牧・美光9条の会 勤医協中央病院9条の会 東友の会若葉班9条の会 士別9条の会 栄東9条の会 江部乙郷土史を学ぶ9条の会 生協九条の会北海道 ニセコ9条の会 きずな9条の会 せたな9条の会 あさひかわ北西9条の会 室蘭・鉄鋼9条の会 小樽山の手九条の会 医療九条の会北海道 千歳9条の会 あさひかわ春光台九条の会 新発寒九条の会 札幌・清田区平岡九条の会 9条の会新琴似北 西岡九条の会 ビー・アンビジャス9条の会・北海道 芦別生健会9条の会 札幌中心街職場9条の会 エンレイソウ9条の会 ※あさひかわ西地域九条の会 稲穂・金山9条の会 えべつ9条の会 桔梗9条を守る会 北区年輪9条の会 北見から憲法を考える会 琴似9条の会 山菜九条の会 中央区山鼻九条の会 とうま九条の会 名寄九条の会 仁木9条の会 花九条の会 余市九条の会 ランコウシ九条の会 岩見澤九条の会 倶知安9条の会 桑園九条の会 月寒9条の会 五輪団地九条の会 光星はとポッポ九条の会 札幌郷土を掘る会九条の会 小樽年金者組合九条の会 新光九条の会 青年九条の会 石狩市九条の会 南区九条の会 農業関係者九条の会 北区ひまわり薬局九条の会 北大年輪9条の会 北野九条の会 新琴似九条の会

＜個人＞ 5 名

肘井博行 高崎 暢 中村睦男 石塚信夫 姉崎洋一

結成総会アピール

私たちは国連軍縮デーの今日、札幌の地においてヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会を結成致しました。今世界には、核兵器禁止条約の採択という歴史の展望を切りひらく大きな出来事とともに、核開発と軍事的緊張の高まりという逆の動きもまた生じています。私たちに求められていることは何なのでしょう。唯一の戦争被爆国日本は何をなすべきなのでしょう。

1945年8月6日と9日、アメリカが投下した2発の原子爆弾は、一瞬のうちに広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。そして、72年たった今も被爆者は後遺症などに苦しみ、子や孫への影響を不安に思って生活しています。再び核兵器が使われたらどれだけの悲惨な結果が生じるかを、私たちは広島・長崎から学んでいます。

そこで昨年4月、内外9名の被爆者が、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことをすべての国に求める「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名（通称：ヒバクシャ国際署名）」を呼びかけました。この呼びかけは国内、国外に広がり、6月には国連に対して296万余筆の署名が届けられました。被爆者は2020年までに世界で数億の署名を集めようと提起しています。

7月7日、国連会議は122か国の賛成で核兵器禁止条約を採択しました。核兵器は非人道兵器であるとして、国際法上はじめて違法とされたのです。核兵器による威嚇も禁止され核抑止論を乗り越える方向が示されました。核兵器禁止条約は核兵器の廃絶に向けての歴史的な一歩です。9月20日から署名が始まり、批准国が50カ国に達した3か月後に条約は発効します。

唯一の戦争被爆国日本の政府がこの条約に反対の態度を表明しているのは大変残念です。核兵器をめぐる対立が強まっている今こそ、被爆国日本は核兵器の怖さと被爆の惨状、非人道性を世界に訴える責務があると思います。私たちは、日本を含めて1カ国でも多くの国が核兵器禁止条約に署名し批准するよう働きかけます。

そして核兵器禁止条約から核兵器廃絶への流れを確かなものにするのは、「再び被爆者をつくるな」と訴え続ける被爆者の声と、核兵器の廃絶を求めてやまない私たち市民社会の運動です。私たち北海道民の会は、それぞれの団体の自主性と賛同する個人の人々の創意工夫を生かしながら、核兵器廃絶という共通の目標に基づいて共同し、道民過半数のヒバクシャ国際署名を国連に届け、核兵器のない平和な世界をめざして奮闘します。

2017年9月26日

ヒバクシャ国際署名を進める北海道民の会結成総会